遠州二方原合戰誌

向石先生著

全

伊5
2447

昭和四十年六月十九日
国書刊行會
氏寄贈

伊藤
2557

中井氏珍藏

遠州三方原合戦誌　白石先生著

元亀三年冬十月甲斐の信玄四万余の人数
を率て家康公の御分国を侵略せらるゝ事
久敷戸石久師の城を巡見し大井川法の中山
を越て駿河の八幡の高地に陣を立
此年遠江の国人数の内に家康公に
三加門一云後の迫にて御内の侍衆多
年八月廿五日高天神の城を攻落
ゆ三方ヶ原にて又人数八万を以て
四一戦

ふ存りし必ミく味方大勢討死て仕ん続く八法
勝やもりよしく大軍より寄せ来り[illegible]人軍
四五年も取り下人[illegible]引九ヶ国[illegible]へ内帰
給ふへ加勢を以て[illegible]後金銭[illegible]
家康[illegible]之御[illegible]人数[illegible]
君[illegible]内[illegible]一[illegible]人数[illegible]
[illegible]甲斐[illegible]
[illegible]八[illegible]家康の[illegible]
申ふかくのれりけると[illegible]

[illegible]陳の[illegible]と示[illegible]殺[illegible]引上
[illegible]七里[illegible]甲斐[illegible]家康
[illegible]二[illegible]の[illegible]千八[illegible]八[illegible]
家康[illegible]御旗本の甲[illegible]屋（カラ）の[illegible]を[illegible]
[illegible]三ツ[illegible]甲斐[illegible]
[illegible]日[illegible]七ツ[illegible]
[illegible]一[illegible]
[illegible]二段の[illegible]押[illegible]
[illegible]人[illegible]足[illegible]

政宗之猛勢に押来て三備大崩して惣
崩となり候所に[illegible]押来る[illegible]押て[illegible]
二段の後に[illegible]中根平九郎[illegible]合て戦ふ
手取加藤喜左衛門松平[illegible]之を防ぎ[illegible]
人々力戦して大功をなす甲斐の大将に
きれなし家康公[illegible]将士
又旗本へ八千の[illegible]押寄[illegible]
榊原の[illegible]切[illegible]大軍[illegible]中根
押て御旗本へ進[illegible]敵[illegible]

犀ヶ崖ハ味方原ノ辺ニ此所ニテ信玄敗軍

つゞる二段の備に信玄方[illegible]
信玄方の四将上一里斗小山[illegible]
浜松[illegible]家康の旗本にして中小太郎[illegible]
とまつのころ追[illegible]廣大の[illegible]の
地形の堺の中[illegible]は犀ヶ崖といふ要害
りにせんと[illegible]竹[illegible]
まて平地のやうにして切落[illegible]
のかた[illegible]要害之地
まで信玄の軍[illegible]上大軍にて[illegible]

尾州鳴海口信長へ加勢とありしかハ信長より此由聞て
自身大将として勢を催し信玄遠江へ出張あるへきよし
申来る信玄へ人質をとりし後信長を討へき為に
加勢の者共を遣しけるにいつれも家康へ加勢として
大将付ケたき者有り佐久間右衛門尉平手
して雑兵七八千斗加勢として来り信玄此
事を聞て頓て向ひけるされハ家康ハ浜松
城一番の要害の所に陣取る事を相待事候
方を遠く見て三方か原に信長より大将の加勢とある

さて日を経て信玄ハ七千斗にて太平の軍勢
鏡ハ三方か原まて押出し備を堅めて鏡懸りて
ハ三方か原まて押出しの方をもつて押寄せ
さるに家康ハ小山田左衛門尉の陣より奥へ
きつくかゝりて敗北の体見ゆる所ハ
鏡のかゝりて信玄組子の者共諸勢を打立
鏡を向ひて見とかく足をとゞむる所に家康の旗本
九郎かゝりて味方一手の信玄方より加勢ハ引不
遠方し手にかゝる所に家康ハ自身の鉄砲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

爰に又也かりけるに一文字に敵の中へのりこ也
隠岐守して討死をとけ家康は浜松の城
をさして引返し給ふ所に美濃之助四十余
騎にてとゝまりて中より出て小笠原七九郎彦政
本多作左衛門先にすゝみ出て敵に向ひ
渡辺之介さかりに討死す家康は大敵
と申せとも手を究て敵あまた取て其のかたを
小入々八寸をもちて小山田か弟の首をとり
もちて鶴の丸か大将か前に首をもたせ

月は八日の夜にて御座候旦一日にて猪原
かりそめに今川はまりて八年に及ひ
敵兵一々打ちて御石門の下の御山へ
隠さんとしたる一度の浅き言葉とも
さ附る後深山氏の清衆に帰る八百張
の加勢を遣し給ひて必定の軍とせ給ひ
旗を立て山の中の清氏の軍とて押へとしけり
家康の清山殿たけもし帰りにかゝりて縮めける
なきとて三方の原にて陣を張りて積石を

うち出されは後之方もよりさましく御さき
三成方より人数を出し候と云候処を小山田
前を押へきたりけれはう後之者五郎大夫承取
されき後を推原之者小野へ渡りて御勝手
此小山田と宮部し　将卒に候ひなきとて
まかり先の場を小野候と云しけまうとを
此節之小野候四百余銭とりて之許之にて佳方の
其節田方之原二十人程にて氏を奈らに相献并とき別
山本之二吉り上のれ之進すとり　家臣之者
是程者人数ともかく此節の場所にて大友
此者の内一人を之に討之の掛より小山様の
是へ出て二組之上　突きかかり也我も追之之所
能其くり付て来りて甲斐方持横合より
浪人之の御勝手之仰せしてとりけると酒井
右衛門尉頭　横合持たのみにて宮部守
と首を持ち候て日利の組にて後程して酒井之
宮部被官之者甲斐守第十二使へ渡候藤小
切りと小山田ヵくらて小嶋候にて入来向ふ

[illegible]
入る板橋かくるを板橋を
て立板橋で入典厩上かくふとい四橋を入
四方よりて立山橋を入赤鳥を[illegible]
高ゆるゆるゆるゆる砂[illegible]
作[illegible]四井[illegible]高倍[illegible]軍で時の[illegible]
[illegible]
[illegible]
中海の[illegible]馬[illegible]

[illegible]
[illegible]
御[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

元暦元年ハ源家ニ小し以武威を顕れ給ふ
そのしく光れ於き大寺ハ平家よりて寄手
つとしてさほし宗盛つ門卿教盛
三位忠度主引れ清房の敵して忠盛へ
退経正を敦盛家長も忠度大将ふく
追てし経正忠度出陣して
弟大宰通盛経俊追きさあれハ
三位中将日頃重衡生捕られて
西国の大渡師盛て一谷堅めて源氏の為

討なりとて いさみてとく 渡りしと切てんて
我か見ゆるよし追来安頼とみてとらて
うるめて 川ある左門とよて 関ゆきしる
みちとし城中に法りれ出しき安房蔵ある
小太郎家之の清房ふく 討死の人々にハ 知章
経俊ふ敦盛の河越深者 主忠頼ゆ
在名女房者宇治川佐々木か高綱か梶原源太
天下ニ名を振して宣旨の御ニ召人
討死して後其身ハ平家の宇治川にかかる

法眼尼命山口左衛門尉殿へ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

行和尚上御田し中ゟ永ハ今日の合戦味方
利なきに依て敵ハ龍に攻り法言大軍と云語
小の陣に之明日ハ必定ハ事と存を一しれ和
何も玉民の欲歩ニ海国まて尭し和尚も
家康公ハ多年の思ひ出して浅之二條国然に
ハ是社も甚深きへし　和尚公を尽く玉頭を
敬ひ難しやと言へて菩薩手計や声而は
家康公の心中を思ひ玉ひて　玉泪へ
中井与三に思存法しかし玉泪御門の

前に出しく一所に罷出しに家康公に
示して謝して申すより竹の内ノ井一国を誌
し中井三国氏の苦を解き井之家康の
為多年の忠義を謝する皆是法の為之一族まで
不残日ノ本丸に定めて御下知下さるは
大坂天下の御取るに至りて此等を家康公へ
手に入る為に到りて本の如くして直しつる
中井氏へ和尚母子の為め一族の為之相模守せよと
弟子也大坂守の中井家の無事ならん事とぞ

のむことは守るに火をともしへ燭に火をとも
されて[illegible]にかりて御覧しけく
此数ハ明日迄にさとさせ給中にふして
四月廿七日に年中に[illegible]て新生[illegible]の如く
[illegible]しつゝ[illegible]されは[illegible]を
あらく是を術の奥義を究めし四方に
其名[illegible]は太[illegible]一流して[illegible]
家康公の御尊意を得て以て[illegible]
[illegible]無双の手に名高く山[illegible]御使にと

[illegible]以今に伝ふに火をともし[illegible]
此御かみまて[illegible]も[illegible]
火をとりし[illegible]
とれの方よく根かくし摩[illegible]のうさくへ
[illegible]
り[illegible]入[illegible]
無[illegible]
[illegible]
[illegible]上旬[illegible]
[illegible]筆者[illegible]

斗之丸に残りみなく調へられてそのれ
築山殿を召寄せて遊はせ給ふへき事と
浜松へ召させられ築山殿に御生害なさしめ給ふ
ものゝふ遠江家康公御家中なる人々にかゝりけり
とら岡崎の城の大手より又二俣の城へうつし
御せかりし信康を二俣の城に移まいらせ
服部半蔵正成に命して御介錯をおほせつけ
御介錯の事半蔵承りしか天方山城守
世をさらせられし御年廿一歳

御生害の御事は此御陣中にて遂ぬ
命じ給ひて我一人の命に換て公の命を
救ひまいらせんと[illegible]仕りけれと
此の事[illegible]くやしくてなけき
申けれとも御命を助け奉りかねし
御なけき家康公にも御涙を流させ給ひて
御かくれ[illegible]の御事を[illegible]に
[illegible]御歎き[illegible]
未た[illegible]人々[illegible]とて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠州味方原合戦誌正誤

○甲賀、甲斐ニ作ルヘシ甲賀ハ近江ノ郡名　初葉ヲ

信玄ノ住セシヲ聞カス　同五

○濱松ヘ閑ニヱヲしハ　同六

○三加川一言坂　同八ウ

○其上人数カサミテ見ヘハヘハ　二

○甲ニカラノ頭　同六ウ

○ちりみ畏レズ

○後ハ地獄の陸の方ハ摩ヲ□三ヲ四五

○信玄より云ク　信玄ニ作るヘシ　同ウ八

是信玄ノ言葉ナリ　同三

○ちぐかりあ